

つみきのくらし

NO.42

日々の暮らしの中で、こども園つみきとして大切にしたいことや、こどもとおとなの素敵な姿をお伝えしていきます。



大浦 久子

ムシとの関わりから

ムシを見つける機会が増えてきました。暑い日は水遊びも人気ですが、子どもたち（特に男の子）は戸外での活動の時間を土のなかや、草むらを凝視して動くものを見つけています。視覚（色・形・大きさ・動きなど）・触覚（かたさ・チクチクツルツル・重さ）からの情報を頭に入れながらムシについて学んでいます。自分たちの夢中になるものがあると探求心が沸いて、キラキラした表情を見せてくれています。



おうちで捕まえたクワガタを園へ連れてきたことから、クワガタに興味を持った子たちが観察しています。



クワガタの絵本を開いてクワガタの絵と実物を見比べて、ムシの種類を探ります。体の大きさ・アゴ(ハサミの部分)の形などをじっくり見ていました。



“生きていく力”を育むための学びのステージ

ムシへの興味から名前を調べたり、すみかを作るために必要な環境を作ったりすることで、ムシへの愛が感じられました。

「ごはん食べに来ないんだよ・・・」「土の中に隠れて出てこない・・・」と自分たちが用意した環境が、ムシには適していなかったのかも・・・と心配そうに虫かごを何度もものぞいていました。どうして姿を見せないのか、図鑑で調べたりすることで「なぜ」が「なるほど」に代わっていきます。自分たちで答えを見つけることは、深く印象に残り自分たちの学びにつながります。

彼らはこの経験から自然とのかかわりや、ムシへの思いやり、試行錯誤することでの気づきを得ていました。誰かに言われたからではなく、自分たち発信の行動だからこそ、夢中になって不思議に思ったり知ろうと思ったり仲間と相談しあったり。夢中になっている人の表情は、人をひきつけます。

今回、私が彼らの行動にひきつけられてしまい、このエピソードを紹介しました。

園ではこのような子どもたちの姿をよく目にします。今後もいろいろな形で紹介します。

